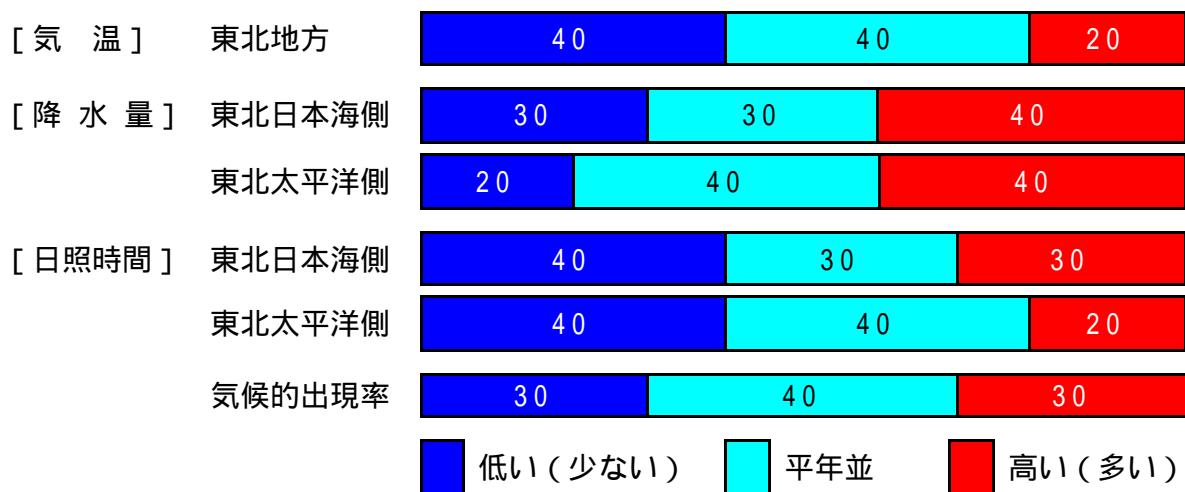


# 東北地方 1 か月予報の解説 (予報期間: 3月18日~4月17日)

平成12年3月17日 仙台管区気象台

## 1. 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)



[気温]: 東北地方は「平年並」か「低い」の可能性が最も大きく、その確率はそれぞれ40%です。「高い」の確率は20%と小さい。

[降水量]: 東北日本海側は「多い」の可能性が最も大きく、その確率は40%です。次に大きい可能性は「平年並」と「少ない」で、その確率はそれぞれ30%です。

東北太平洋側は、「平年並」か「多い」の可能性が最も大きく、その確率はそれぞれ40%です。「少ない」の確率は20%と小さい。

[日照時間]: 東北日本海側は「少ない」の可能性が最も大きく、その確率は40%です。次に大きい可能性は「平年並」と「多い」で、その確率はそれぞれ30%です。

東北太平洋側は「平年並」か「少ない」の可能性が最も大きく、その確率はそれぞれ40%です。「多い」の確率は20%と小さい。

## 2. 予想される天候の特徴

(もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。)

向こう1か月

東北地方は、この期間天気は周期的に変化するでしょう。前半を中心に気圧の谷の通過後は一時冬型の気圧配置となり、寒暖の変動が大きいでしょう。天気は平年に比べ曇りや雨または雪の日が多いでしょう。

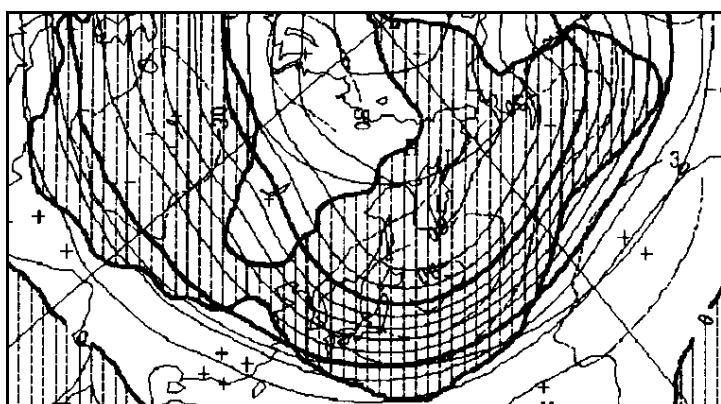
平均気温は平年並か低いでしょう。

平年の晴れ日数は、東北日本海側で約18日、東北太平洋側で約21日です。

## 各予報期間の天候の特徴

- 1週目…………… 19日から20日にかけてと期間の後半に気圧の谷が通過する見込み  
 (3月18日～3月24日) で、通過後は冬型の気圧配置になり、日本海側では雨か雪の日が多いでしょう。太平洋側では19日から20日にかけて天気がくずれるでしょう。  
 平均気温は平年並の見込みです。  
 平年の晴れ日数は東北日本海側で約4日、東北太平洋側で約5日です。
- 2週目…………… 気圧の谷が周期的に通過し、気圧の谷の通過後は一時冬型の気圧配置になるでしょう。天気は太平洋側では周期的に変化し、日本海側では曇や雨又は雪の日が多いでしょう。  
 平均気温は低い見込みです。  
 平年の晴れ日数は東北日本海側で約4日、東北太平洋側で約5日です。
- 3～4週目…………… 天気は周期的に変化するでしょう。東北地方は平年同様晴れの日が多い見込みです。  
 平均気温は平年並の見込みです。  
 平年の晴れ日数は東北日本海側で約9日、東北太平洋側で約9日です。

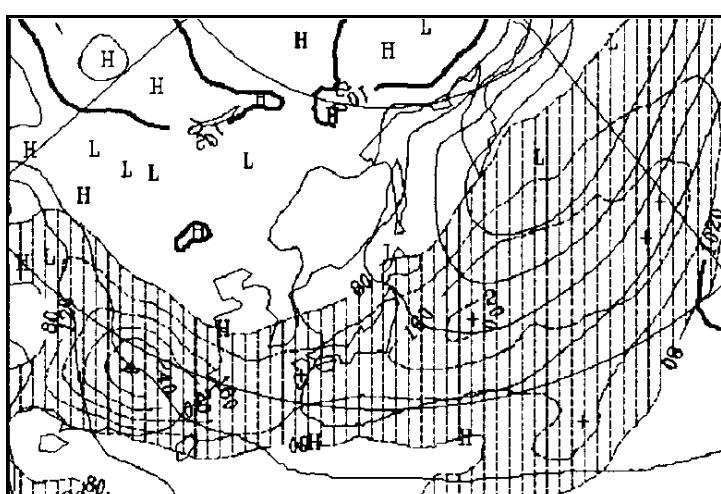
## 予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）



月平均の500hPa高度・偏差  
 (等高度線: 60m毎、偏差: 30m毎、陰影部: 負偏差)

### ・500hPa高度・偏差

月平均では日本付近は負偏差に覆われる。気圧の谷の軸はやや東側に寄っており、天気は周期的に変化するが、一時寒気の入る時期がある見込み。週別（図略）でみても、日本付近は期間をとおして負偏差に覆われる。



月平均の地上気圧と降水量  
 (等圧線: 4hPa毎、降水量: 40mm毎、陰影部: 80mm以上)

### ・地上気圧と降水量

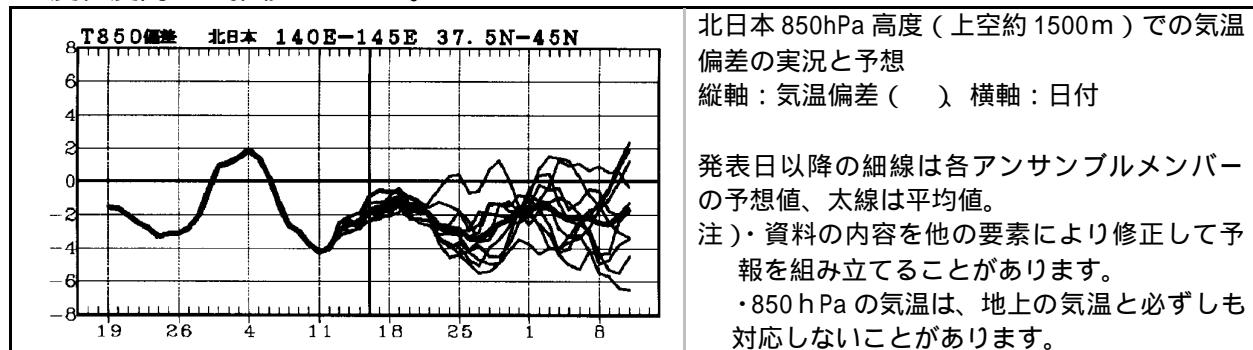
月平均でみると、北日本では弱い冬型の気圧配置を示す。また、日本付近には降水域が東西に広がり、本州南岸沿いに比較的明瞭である。

週別（図略）では、1、2週目は冬型の気圧配置がややはっきりしているが、日本の東海上に中心を持つ降水域は、北日本にまで広くかかっている。期間をとおして周期的に低気圧が通過し、1、2週目は通過後に一時寒気が入る時期がある見込み。

### 3. 北日本 850 hPa の気温平年差の実況と各アンサンブルメンバーの予想

北日本 850hPa の気温平年差は、アンサンブルメンバーの平均でみると、期間をとおして負偏差。3 週目以降バラツキは大きくなり、後半の信頼度は小さい。

なお最近の実況では、東北地方の地上気温平年差は、北日本 850hPa の気温平年差に比べて 1 度程度高めに推移している。

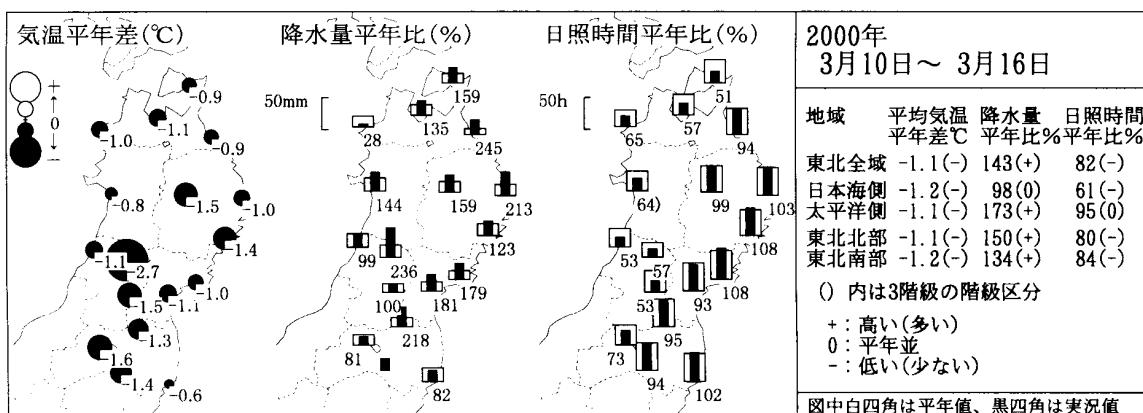


注: 1 か月予報では、よく似た初期値から出発した 10 個の数値予報結果のバラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します (この手法をアンサンブル予報といい、10 個の予報結果のそれぞれをアンサンブルメンバーといいます)。一般に予報結果がばらつかないほど、大気の流れが予測しやすい状態にあると考えられます。このような状態の時は、信頼度が高くなり、確率の大きな予報を出すことができます。

### 4. 最近 1 週間 (3 月 10 日 ~ 3 月 16 日) の天候の経過

この期間 12 日と 16 日に気圧の谷が通過し、通過後は冬型の気圧配置となった。東北日本海側は雨や雪の日が多く、東北太平洋側は天気は周期的に変化した。特に 16 日は太平洋岸を低気圧が発達しながら通過し、東北太平洋側で大雪となった。

平均気温は、東北地方で平年差 -1.1 度低い。降水量は、東北日本海側では平年比 98% で平年並、東北太平洋側では平年比 173% で平年より多かった。日照時間は、東北日本海側で平年比 61% と少なく、東北太平洋側では平年比 95% と平年並だった。



最近 1 週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差 (比)